



臨床美術ジャーナル Vol.6 No.1 (2017) 目次

【巻頭言】

明日へのプロローグ

渡辺信英（郡山東都市学園 学園長/第8回臨床美術学会 大会長）

【原著】

臨床美術における意味生成ケアとナラティブ・アプローチ

—他社との相互行為による物語の場の成り立ち—

北澤晃（富山福祉短期大学）

学級担任と臨床美術士の協力指導による図画工作科としての臨床美術の可能性

—盛岡市立羽場小学校第3学年の授業実践を通して—

小野寺牧子（岩手県立黒沢尻北高校）

若年性認知症に対する臨床美術の特徴と有用性

古田晶子（順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学） 他

【事例報告】

臨床美術によるコミュニケーションによって居場所をつくる

—公立中学校美術部での実践から—

丸本真代（臨床美術士）

VASを応用した気分変動評価から考察される臨床美術の有効性

—脳リハビリデイサービスにおける臨床美術の取り組み—

永池雅子（医療法人社団翔洋会） 他

ある認知症高齢者の内的世界

—強固に形成された内的世界は現実の変化にもかかわらずなぜ保持されるのか—

池亀正夫（臨床美術士）



【特別講演】

かたちの話 ー彫刻ー

木戸修（東京藝術大学 教授）

【基調講演】

物語と臨床

野口裕二（東京学芸大学）

【シンポジウム】

臨床美術のこれから

木村伸（医療法人社団信悠会木村クリニック院長）

臨床美術士に求められるもの／臨床美術士が求めるもの

保坂遊（東京家政大学）

国境なき臨床美術士

木野内美里（株式会社フェリシモ）